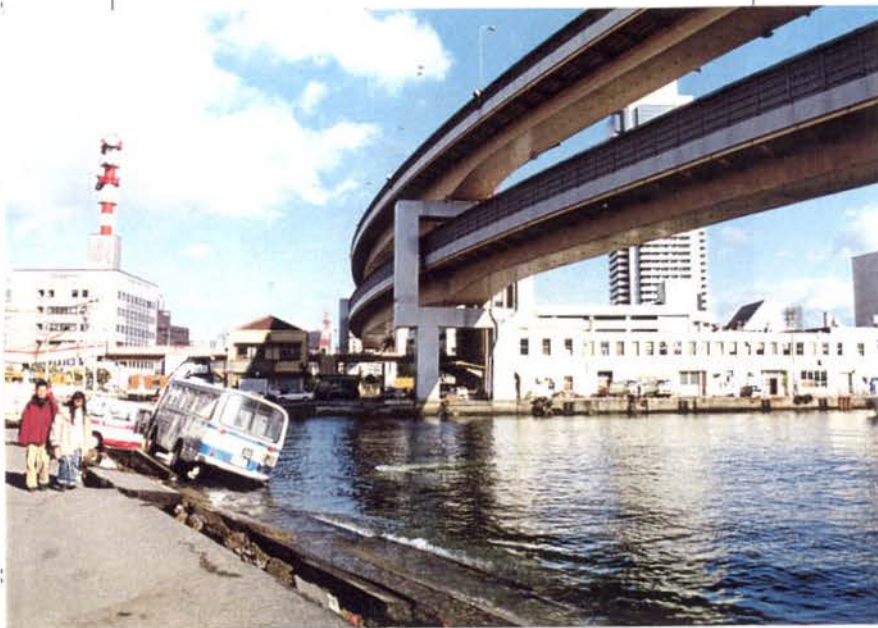


1. 国道2号線浜手バイパス他



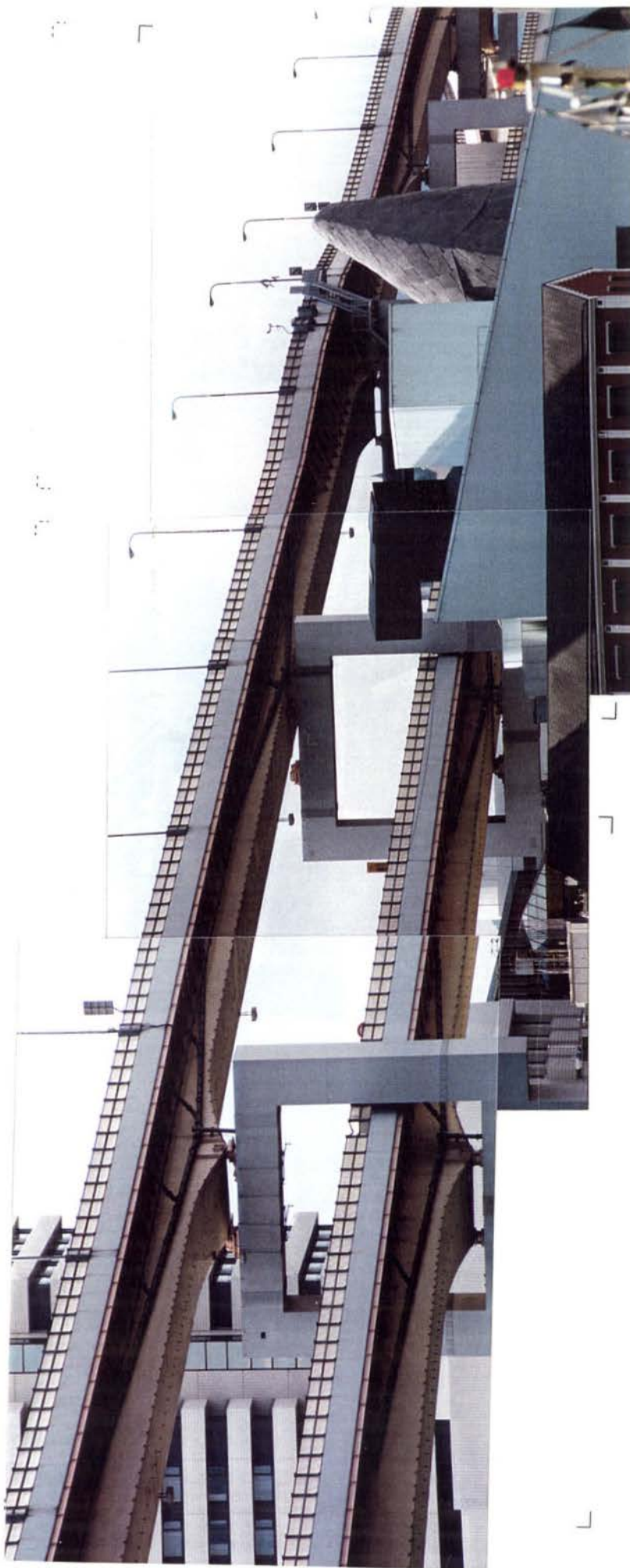
1. 1 a : 浜手バイパス全景
中央の脚および上層の桁は当社
施工。



1. 1 b : 同上
岸壁が崩壊し、多くのバスや乗
用車が海に沈んでいる。



1. 2 a : 京橋付近から
左から、P34、35、36……
P36上で上層桁が橋軸直角方
向に大きくずれている。



1. 2b: 京橋付近から
左から、P38、39.....
各脚上で、上層桁の海側支承が
はずれているのがわかる。



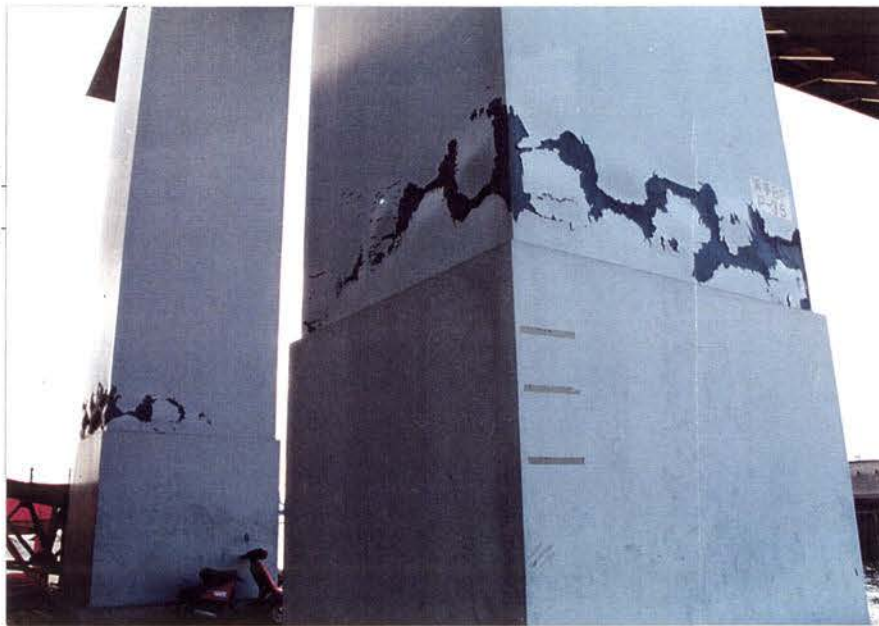
1. 2c : 京橋付近から
左から、P37、38・・・
P37上で照明柱が大きく傾いている。



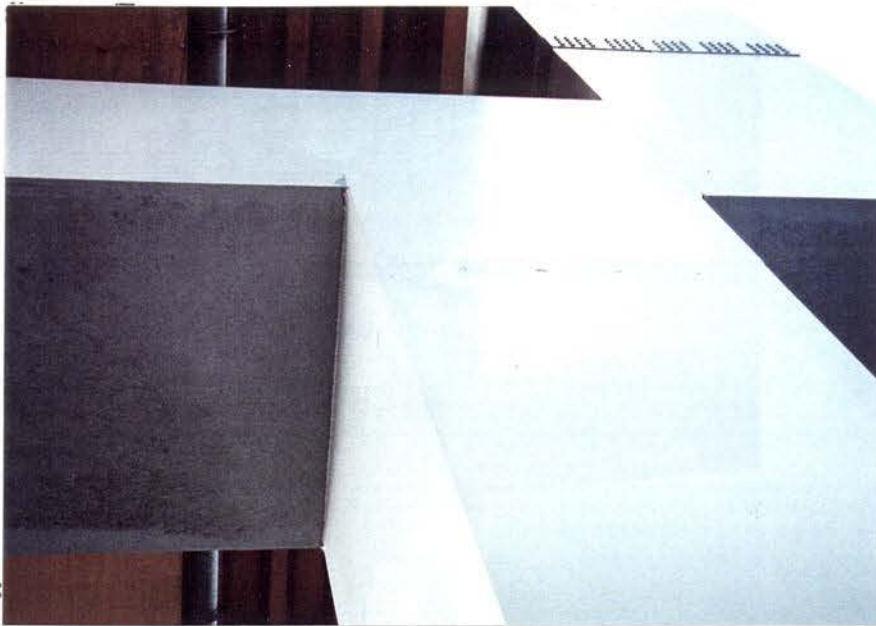
1. 3 : 新港町付近で
右から、P35、36・・・
P36上で上層桁が大きくずれている。



1. 4 : P 3 4
基部付近（向かって右側）に塗装の剥離がみられ、座屈には至らなかったものの、大きな応力集中があったことがわかる。



1. 5 a : P 3 5（山側から）
脚基部付近で座屈。



1.5b : P35 (山側から)
山側脚の板突き合わせの付近で
塗装の剥離。また、隅角部にも
応力集中の痕が見える。



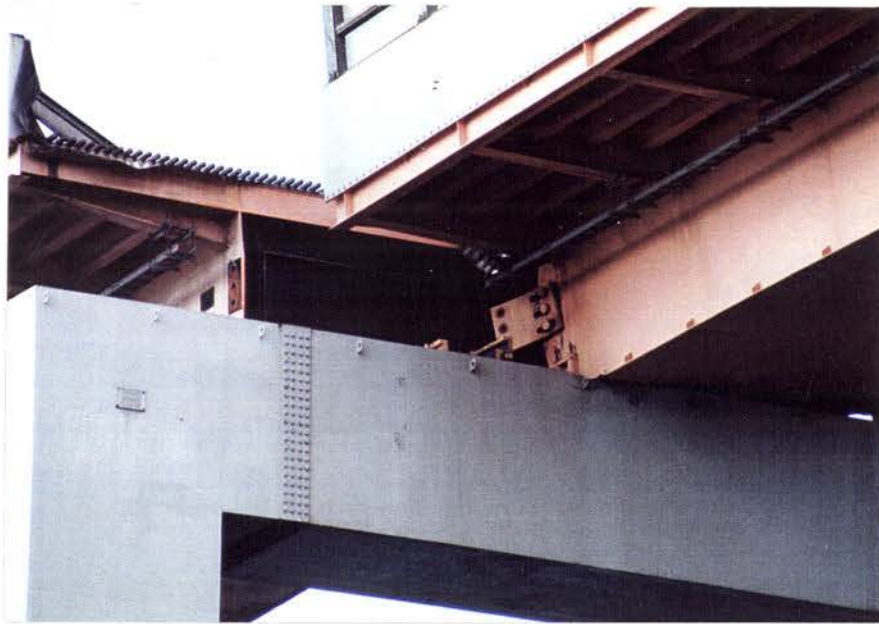
1.5c : P35 (山側から)
上層桁が海側の支承から脱落。



1.6a: P36 (山側)
上層桁が大きくずれて



1.6b: 同上
排水管の位置から見て、右の桁
が海側へ移動（相対的に）した
模様。



1. 6 c : 同上 (海側から)
落橋防止の連結板は、固定側で破損している。沓の位置から見て、右側の桁も山側へ移動している。結局、両方の桁が全く反対方向に同時に動いた？



1. 6 d : 同上 (海側から)
下層桁は左右とも海側へ移動しており、壁高欄が柱にあたっている。
また、左 (海側) の脚は手前の下方で大きく座屈し、右の脚は上方の裏側で小さく座屈している。これから、脚全体が大きくひねられたことがわかる。



1. 7 a : P 3 7 (山側から)
上層桁が海側へ移動し、山側沓
が脱落。
また照明柱が大きく山側に倒れ
ている。



1. 7 b : P 3 7 (海側から)
上層桁が海側へ移動し、山側沓
が脱落。



1. 7 c : P 3 7 (海側から)
下層桁も海側へ移動し、海側沓
が破損。壁高欄が柱にあたって
いる。



1. 8 a : ホテルオークラ駐車場
(海側) から
左からP 3 8、3 7・・・



1. 8 b : P 3 8 (海側から)
海側沓が脱落。桁は山側に移動。



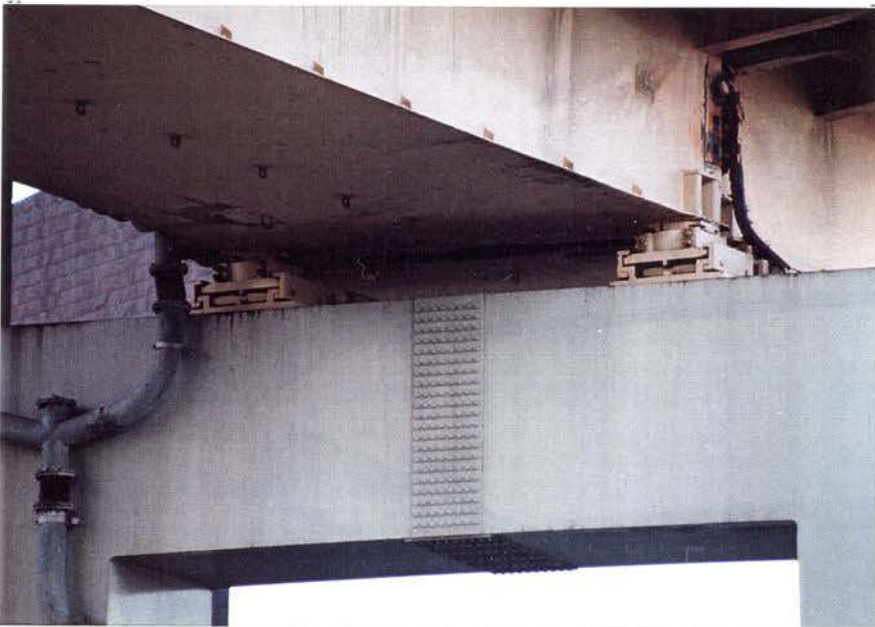
1.9a : P39 (海側から)
上層桁が山側に移動し、海側沓
が脱落。防音壁が座屈。



1.9b : P39 (海側から)
排水管の位置から、約1m弱も
移動した模様。



1.9c : P39 (山側から)
下層桁の防音壁も破損。



1.9d : P39下層桁
(海側から)
手前の下層桁はあまり動いていない。



1.9e : P39下層桁
(山側から)
相手側 (向かって左) の下層桁
が、多少山側へ移動して、連結
板が破損している。



1. 10 a : P40 (山側から)
上層桁が山側へ移動。非常階段
がねじれている。



1. 10 b : P40 (海側から)
上層桁から吊り下がった照明を
固定するワイヤーが切れている。



1.11a:P41(山側)
周辺の地盤が液状化で沈下。
脚に局部座屈。

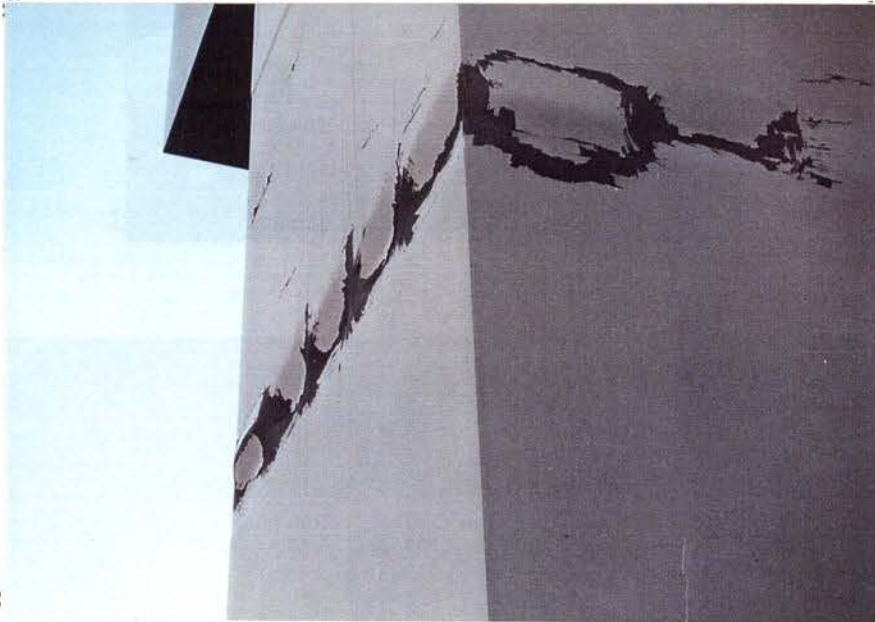


1.11b:P41
脚が局部座屈。右が海側。



1. 11c : P41

左が海側。脚基部に塗装の剥離が見られる。また座屈は裏側に起きていることから、橋軸方向に手前から向こう側へ曲げられた模様。



1. 11d : P41

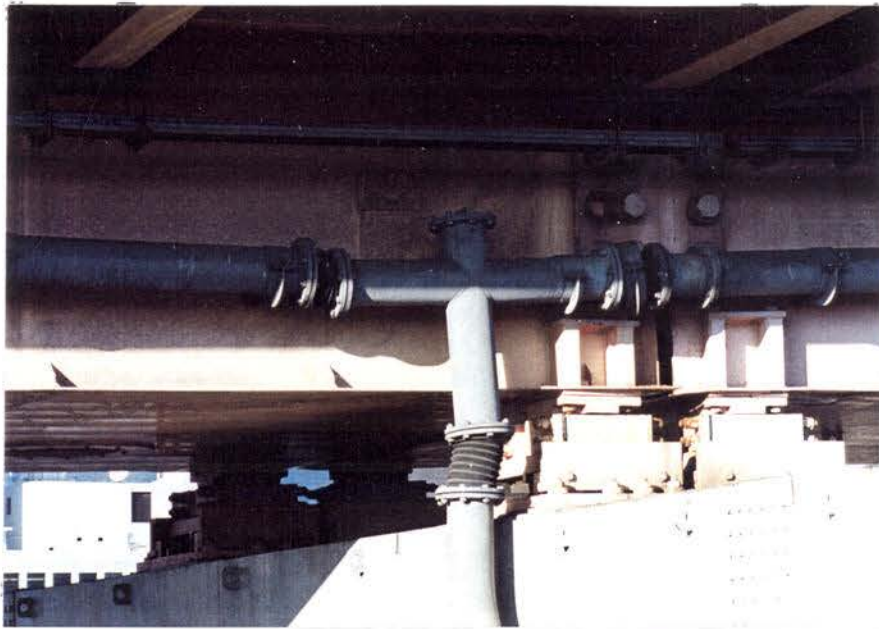
山側脚における座屈のパターン。



1. 12 a : P 4 2 (山側から)
上層桁は当社施工。
一見、何も損傷はなさそう。



1. 12 b : P 4 2 (上層桁)
左右の桁が突き当たって、遊間
がなくなっている。山側から見
上げたとき。



1. 12 c : P42 (上層桁)
左の桁が右の桁を押している。
ホテルオークラ駐車場 (海側)
から見たとき。



1. 12 d : P42 (上層桁)
同上。支承周辺。



1. 12 e : P42 (下層桁)
一見、何も損傷はなさそう。山
側から見上げたとき。



1. 12 f : P 4 2 (下層桁)
舗装およびExpは、何も損傷
はなさそう。

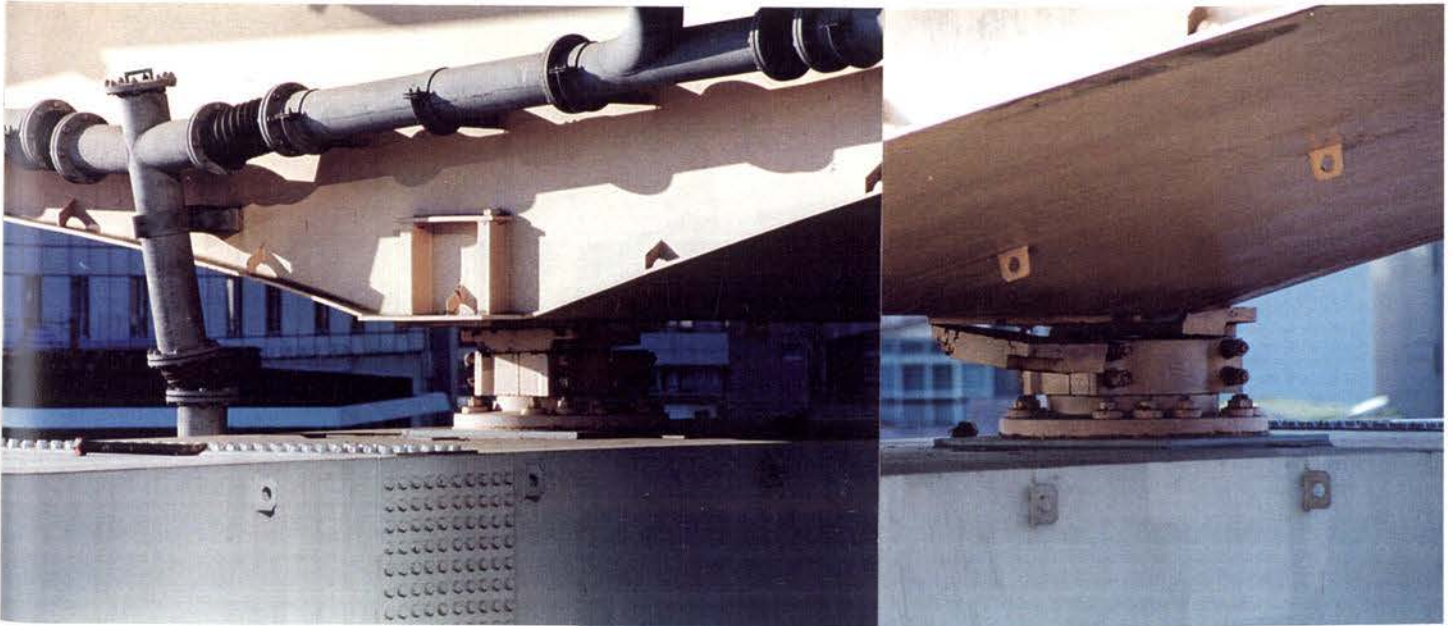


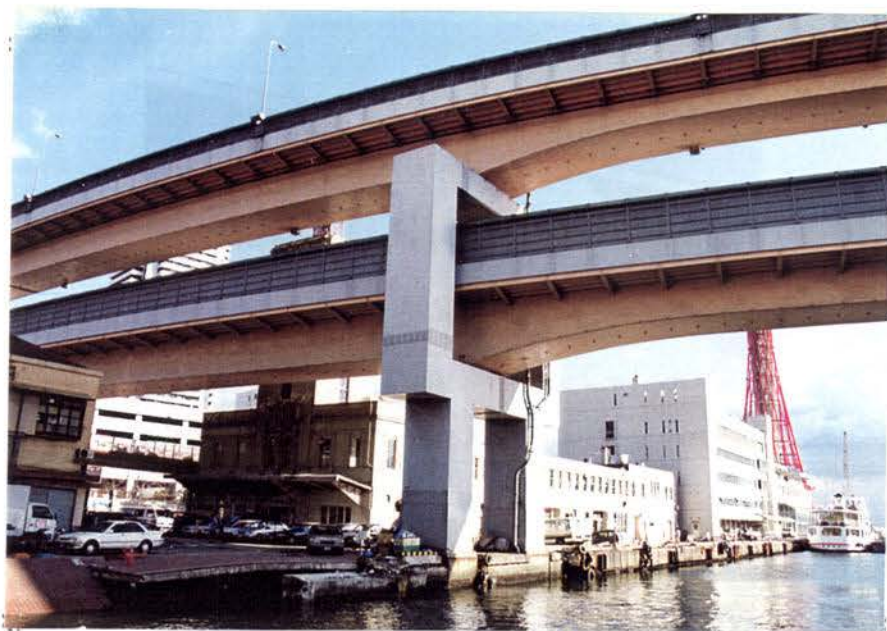
1. 13 : P 4 2 ~ 4 3
上層桁の海側壁高欄で鋼床版ス
プライス位置に多少の損傷が見
られる。

1. 14 a : P43
特に問題なさそう。



1. 14 b : P43
上層桁支承まわり。右が山側。
山側の上桁が破損。

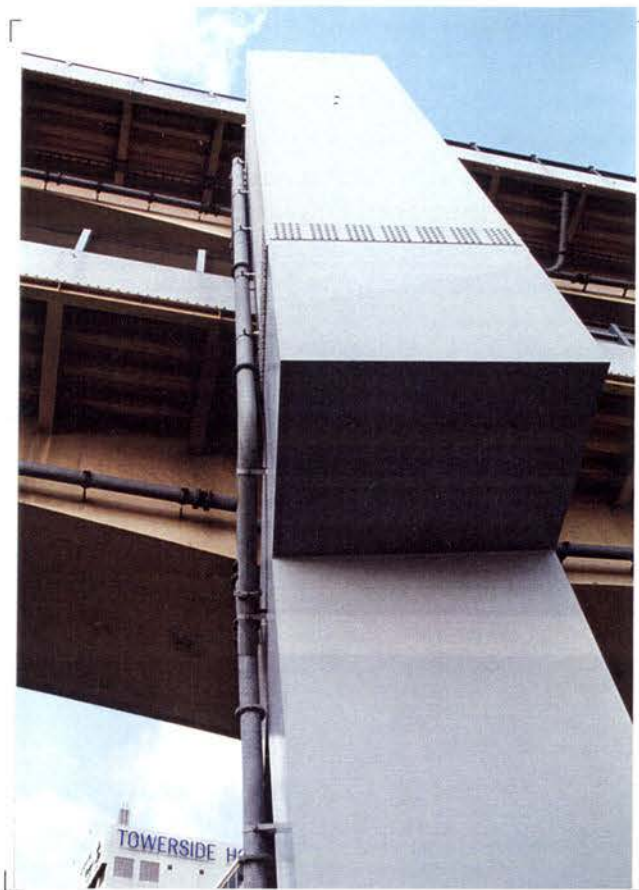




1. 15 a : P 4 4 (山側から)
この脚と上の桁が当社施工分。



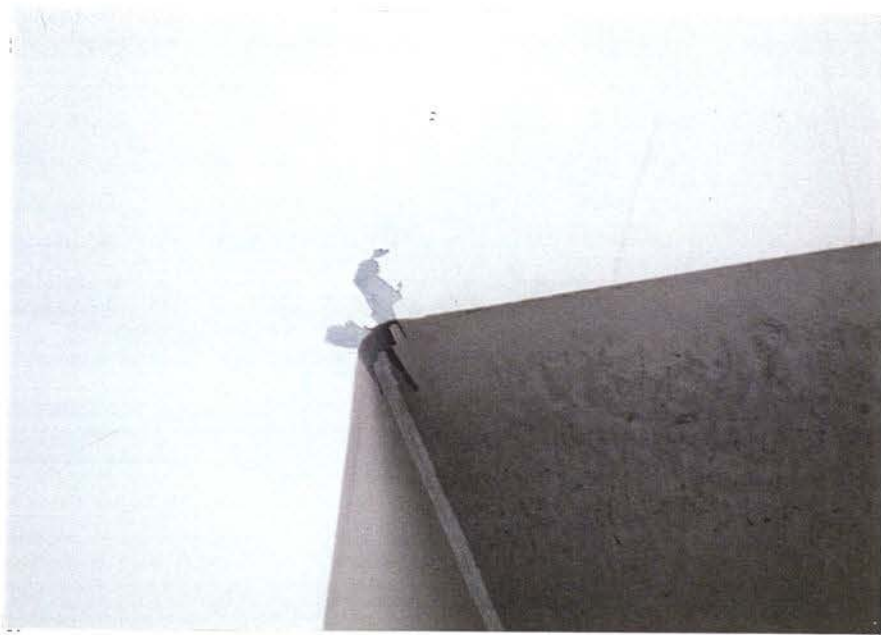
1. 15 b : P 4 4
山側から。周辺はゴミ集積場。



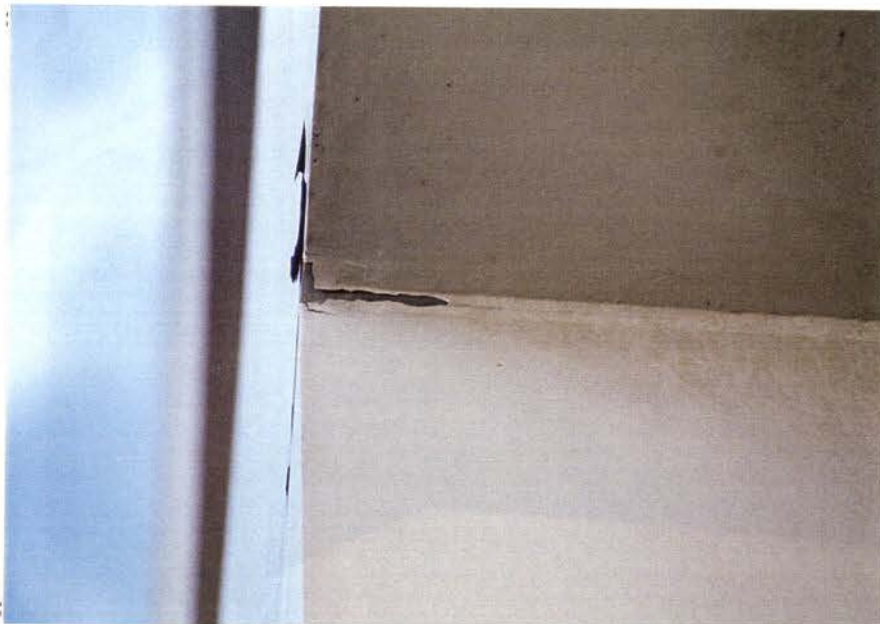
1. 15 c : P 4 4
海側から。傾きはなさそうである。



1. 15 d : P 4 4 (海側)
脚基部。周辺の護岸が沈下。
根巻きコンクリートが破損し、
脚が揺さぶられたことがわかる。



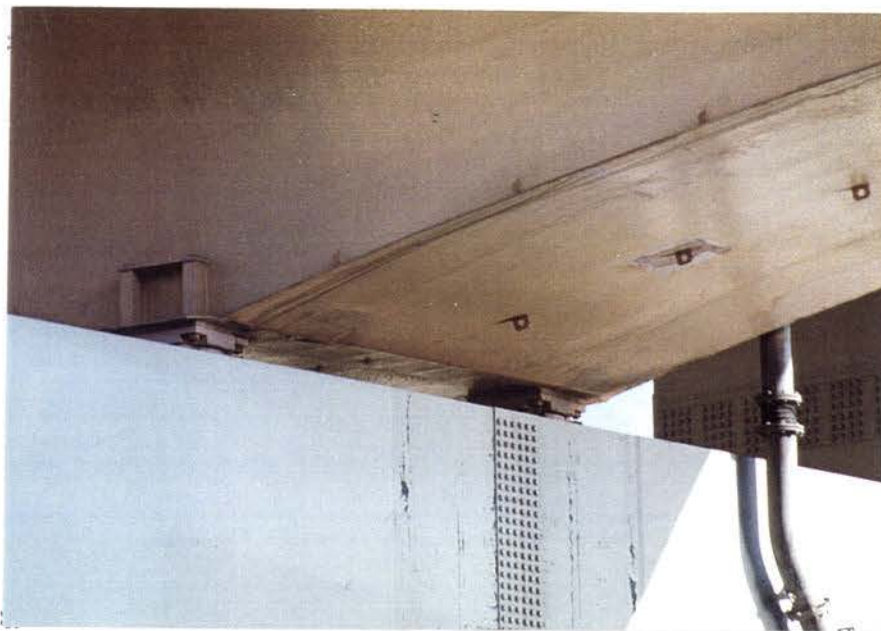
1.15e:P44
脚と水平梁の隅角部の塗装が剥離し、応力集中の痕が見える。



1.15f:P44
同上。



1.15g:P44 (上層桁)
左側(山側)の脊のサイドブロッックが破損している。



1. 15h : P44 (下層桁)
脚の水平梁に縦の塗装の剥離が見られる。



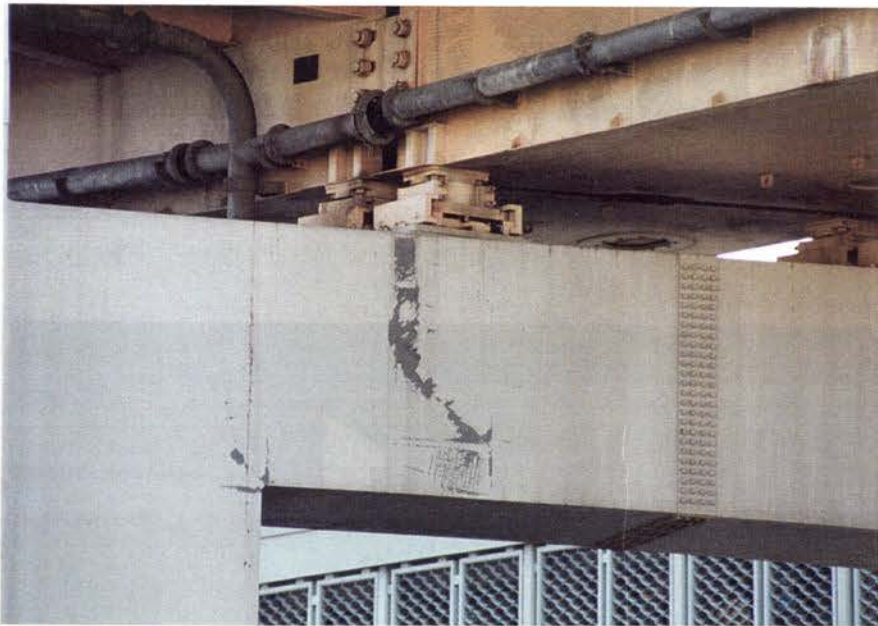
1. 16a : P45
上層の水平梁の隅角部（海側）に大きな塗装の剥離が見られ、大きな応力集中があったと思われる。



1. 16b : P45 (上層桁)
右（山側）の上沓が破損。桁の遊間がほとんどなくなっている。



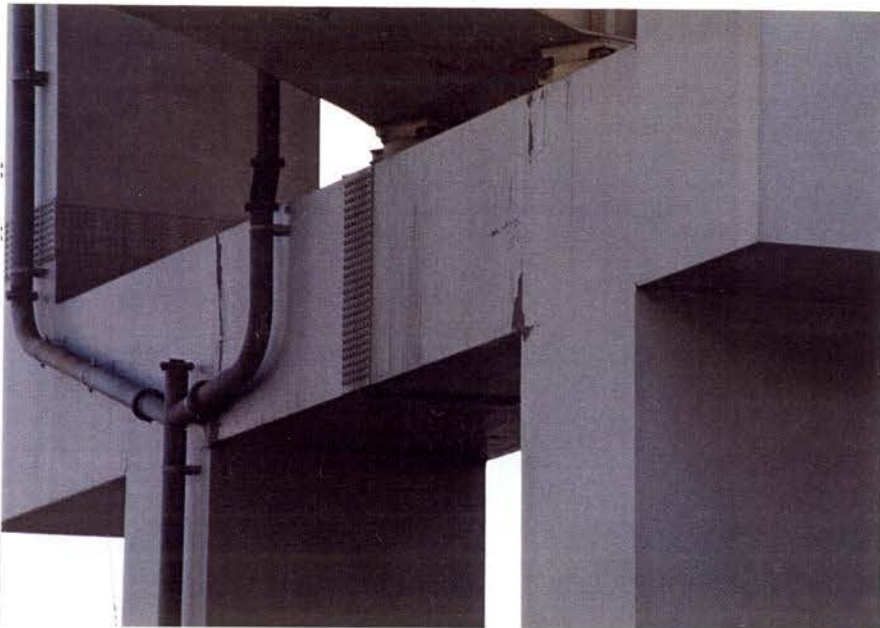
1.16c: P45 (上層桁)
両桁が近づいたため、防音壁が座屈。



1.16d: P45 (下層桁)
脚の下層の水平梁の沓直下に、塗装の剥離。沓から大きな反力がウェブに伝わった？



1. 16 e : P 45 山側脚
根元で多少座屈が見られる。



1. 17 : P 46
脚下層の水平梁ウェブに縦方向の塗装の剥離。



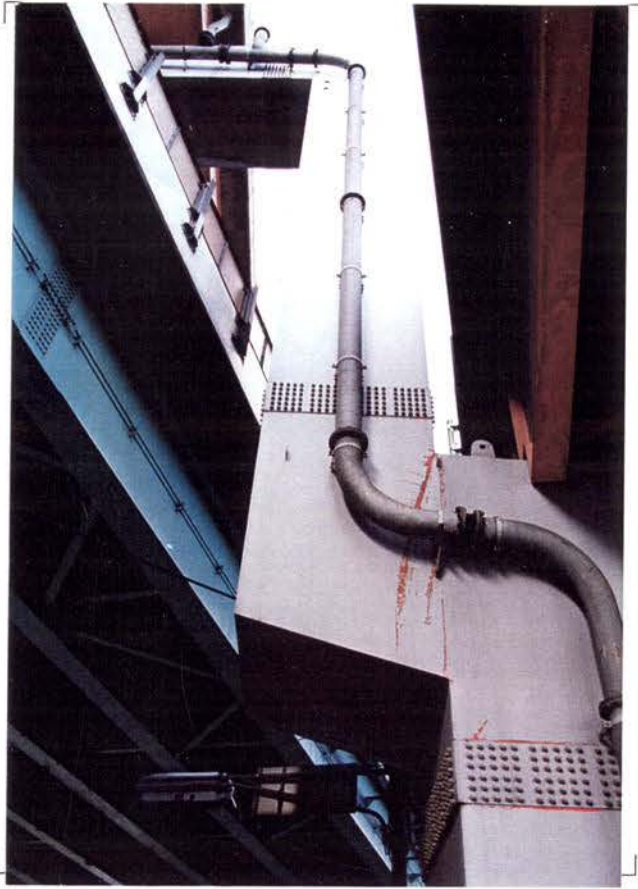
1.18: RC脚

大阪よりの途中で阪神高速越しに見かけたRC脚の側面に、一面のひびわれが。遊離石灰の具合から、地震とは無関係か？



1.19: RC脚

大阪よりの円柱RC脚で見られた典型的な曲げ圧縮破壊。いわゆる提灯現象。



1. 20 : 鋼製脚
阪神高速と交差する部分の鋼製脚に見られた塗装の剥離。鉛直のせん断力が張り出しの根元に働いた？ また、スプライスの上下縁にも塗装の剥離。



1. 21 : P8
大阪よりのオフランプ桁。手前（神戸より）の桁が、海側（右）へずれている。脚には被害無し。



1. 22 : P7

大阪よりのオフランプ。脚の基部で片側のコンクリートが破壊し、水平力による曲げ破壊と思われるが、全面にひび割れが発生しているのが特異である。



1. 23 : 大阪よりアバット

プレテン桁の脊端部でコンクリートが欠落。脊はメタル。また、アバットに水平のクラックが見られる。



1. 24 a : 国道43号線
岩屋高架橋
RC下部工破損にともない、上
部工（プレテン桁）の撤去作業
中。



1. 24 b : 同上



1. 24 c : 同上
緊張したままのPC鋼線が見え
ている。